

群馬イノベーションアワード協賛社 トップ座談会 4



成長戦略について語り合った(左から)糸井さん、広瀬さん、中山さん、内海さん、岩井さん、雅楽川さん、高井さん、中島さん、セガサミーホールディングス

出席者

セガサミーホールディングス 内海州史 席執行役員

糸井商事 糸井丈之 社長

ファームドゥグループ 岩井雅之 代表

赤城深山ファーム 高井雄基 取締役

アサヒ商会 広瀬一成 社長

COCO-LO 雅楽川陽子 社長

システム・アルファ 広山武雄 社長

中央カレッジグループ 中島慎太郎 副代表

セガサミーホールディングスの内海州史 席執行役員ら8人が「わが社の成長戦略」をテーマに、時代の変化や外国人材などについて意見を交わした。



わが社の成長戦略

うつみ・しゅうじ 1961年生まれの九州男児。さまざまなゲームの立ち上げやエンターテインメント企業の経営に携わり、今年5月から現職、オープンイノベーションなどを担当する



新たな知見貪欲に内海

内海 ベンチャー投資などを担当している。当社はグローバルに展開するが、世界のゲーム業界は今、ものすごい勢いで塗り替わっている。ゲームやアマゾンなどが続々と参入を表明し、巨人たちが参戦する世界規模のトレンドもまたバブルが始まってしまった。生き残りを図るには、新たな知見を貪欲に取り入れるしかない。

糸井 創業74年の鉄鋼卸売りとリサイクル業の会社を経営する。今は2〜3年で、昔の20年分の変化が起こる時代。ホールディングス化やM&A(企業の合併・買収)を経て経営を多角化し、時代を少し先回りしたいと考えている。

プロ野球独立リーグの群馬ダイヤモンドベガスを立ち上げて来年度は13年。今は経営者

時代の変化

外国人材

時代の流れつかむ

地域の発展に寄与糸井



製品化しては店に卸す6次産業化を実現したことで、「品質劣化がなくなった」とうれしいうえに、地域に貢献している企業はつばねないし、つぶされないと思われている。

岩井 38歳でゼロから独立して27年。農産物直売所、農業生産、再生エネルギーでイノベーションを繰り返してきた。今は農業や中小企業を継ぐ若い人が新しい農業、人と環境に優しい再生エネルギーで持続可能な社会の実現に貢献したい。

農産物直売の収益は全体の1割程度で、圧倒的に多い再生エネの収益を元に若手農業者の育成や技術の海外輸出をしている。

高井 赤城の西面から南面にかけてソバを生産している。収穫したソバを自社で素早く

再生エネの重要性岩井



月には新着も出させてもらった。子育て中のママに求人かけ、彼女たちが働きやすい環境を整えていった結果、裾野がどんどん広がって、今では障害者や高齢者も生き生きと働いている。こうした実績を基に働き方改革の

支援も事業化し、「コヨリ」と名付けた。

広瀬 文房具とオフイス機器の会社を経営している。オフイス関連ではコピー機などを販売するが、近頃はアウトドア用品のスノーピークのグループ会社と連携してキャンプ

6次産業化を実現高井



用品をオフイスに取り入れようという提案もしている。テナントやグレルがあるだけで会社のコミュニケーションの仕方は変わっていく。一方通行や前例踏襲になりがちな社内での人付き合いをどう改善できるかという

最近では外国人留学生が定着してきたが、日本の文化や仕事をしっかり覚えて活躍できる人材を輩出してきたい。

内海 時代の変化という点では、ゲームの世界では最近、「他人のプレー動画を見る」という楽しみ方が生まれている。これまでの常識にとらわれて

たかひゆうき 1990年東京都生まれ。大学中退後、アパレル会社勤務を経て23歳で14のスタートアップ部門で大賞受賞。二期作でソバ栽培に取り組み

中島 専門学校を中心に教育と人材関係の会社を運営する。世の中で大きな変化が起きている中で、職業の形は大きく変わっていく。そんな時代だからこそ、教育界が果たすべき責任と存在価値は大きい。従来の教育だけでなく、いろいろな学びの形を模索しながら、幅広い世代に対して今後の展開を考えている。

糸井 創業38年のIT企業。変化の時代にあって、次の方向性を見いだす難しさを痛感している。慣れ親しんだITの世界を飛び出すことは思ったよりも難しいと感じているが、今年を「協業元年」と位置づけ、他業種の皆さんと知恵を絞ることを始めたところだ。社内ではデザイン思考を取り入れ、過去の延長線ではない発想を何とか形にしたいと考えている。

岩井 大きな流れとしては、最近相次いだ台風被害を見て、改めて再生エネルギーの重要性を感じた。スウェーデンの少女が9月、国連で演説したけれど、環境問題はやはりわれわれ世代の仕事。二酸化炭素を減らしてクリーンな電気をつくらうと、日本だけでなくマレーシアやベトナム、チリでも当社のノウハウを導入したがついてくる。人口増加や経済発展という意味では、日本はインドやア



働く環境を変える広瀬

ひろせかずしげ 1976年、高崎市生まれ。航空貨物会社を経て、祖父が創業したアサヒ商会に2009年入社。3代目社長に就任。文具・OA機器、オフィス家具などを販売する

フリカ諸国のような成長を遂げたい。安全で落ち着いた成熟社会を目指すべきだろう。

高井 台風は足元にも大きな被害を出した。分かっているだけで収穫量は3割減。もしかすると半減してしまうかもしれない。それでも赤城のさまざまな



働き方改革を支援雅楽川

うたがわよここ 桐生市生まれ。作業療法士として病院などの勤務を経て、29歳で有明社COCO-LOを起業。キャリア支援とワークライフバランスの制度を導入し、全国的な表彰が多数ある

わかれればその受け皿となって面積を増やしているが、事業拡大という野望ではなく、地域貢献としてうせざるを得ない状況にあるといえる。

糸井 地域に根差した企業活動の根拠にあるのが、将来、墓の前で孫やひ孫から「じい

いなかまきゆき 1954年、旧妙義町(富岡市)生まれ。大学卒業後、スーパー「いせや」(現ペイシア)勤務を経て、94年に農業資材販売のファームランド設立。グループで農産物生産販売、太陽光発電などを手掛ける

いわい・まさゆき 1954年、旧妙義町(富岡市)生まれ。大学卒業後、スーパー「いせや」(現ペイシア)勤務を経て、94年に農業資材販売のファームランド設立。グループで農産物生産販売、太陽光発電などを手掛ける

縮小は間違いなく痛手だが、知恵を絞ってやり方を変えれば活路は見いだせるはず。人間は、優秀な外国人に頼ることも必要だと思つた。

中島 外国人を受け入れると、こちらが外国人を選んでいるというのが錯覚にすぎない。実際には彼らに日本を選んでもらわなければならない。今、留学生の国籍で多いのはベトナム、ネパール、インドネシア、スリランカ、中国などが、例えばベトナムの方は中国や韓国に目を向け始めている。せつかく日本に来てくれた優秀な外国人に群馬に着いてもらうには、実際の会社風土に根付かせるのは簡単ではない。従業員へのヒアリングを重ねてワークライフバランス、キャリア支援、チ



多様な人材を起用広山

ひろやまたけお 1943年、渋川市生まれ。81年に「システム・アルファ」を創業。95年、ドコモショップの運営にも乗り出した。現在、首都圏や東日本にも進出中。モットーは「ICTにも人と人のつながりが必要」

呼び込むかを考えるべき。働きやすい環境の副産物として、当社では妊娠、出産する人も働きたい人も来てくれるように。講演会などで「離職率ゼロは目指さなくていい」と話すのが驚かれるが、いなくなることを前提に魅力的な人材をいかに

広山 当社のホームページを作っている部隊は女性中心で、彼女たちが働き続けようとするための仕組みづくりを考え続けている。子



外国人の定着狙う中島

なかしましんぺい 1976年、前橋市生まれ。大学卒業後、TACを経て2004年に中央カレッジグループに入社。16年からグループ内の学校法人中央総合学園理事長に就任

育て中のママは「働きたいけどチャンスがない」という場合が少なくない。今後は、「眠る人材」であるママの教育に力を入れ、社会で活躍する場を創出する必要がある。県内の若者をつなぎとめるのはもちろんのこと、国内だけでなく海外の人材にも目を向け、多様な人材を呼び込みたい。

先日、中島さんの専門学校の先生たちに聞いた話では、学生の多